

1/23 EUIJ関西シンポジウム・高校生公開討論会 EUの難民政策の経験をふまえて 日本の難民支援について考える

EUインスティテュート関西(神戸大学・関西学院大学・大阪大学)は、大阪府立北野高校・兵庫県立長田高校・関西学院高等部と共催で、シンポジウム・高校生公開討論会(文部科学省後援)を関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス中央講堂にて開催する。

シンポジウムでは、井口泰経済学部教授による基調講演や小池百合子氏による特別講演、そして国連難民高等弁務官事務局との協定による難民を対象とする推薦入学制度で入学した難民2世のテュアン・シャンカイさん(総合政策学部4年生)がスピーチを行う。そして、後半では、北野高校・長田高校・関西学院高等部の生徒がパネリストとして、当日に参加する高校生を交え、「EUの難民政策の経験をふまえて日本の難民支援のあり方について考える」をテーマに討論する。

※一般参加可、申し込み不要、無料

■日時: 1月23日(土) 10:00~15:45

■場所: 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス 中央講堂

■内容(スケジュール)

- 10:00~10:15 開会挨拶 神余 隆博 (関西学院大学副学長)
- 10:15~11:00 基調講演「EUの難民受け入れの現状と課題」
井口 泰 (関西学院大学経済学部教授)
- 11:10~12:00 特別講演「日本の難民支援についての現状と課題」
小池 百合子 氏 (衆議院議員)
- 12:00~12:10 難民学生によるスピーチ「日本の生活で困っていること」
テュアン・シャンカイ (関西学院大学総合政策学部)
- 13:00~15:30 高校生公開討論会
セッション1 「EUの難民対策 -昨今のシリア難民の問題を中心に-」
セッション2 「日本は難民を受け入れるべきか」
セッション3 「日本が難民を受け入れるにはどうすればよいか」
「日本が難民を受け入れないとすれば、
ほかにどのような貢献をすべきか」

[パネリスト]

SGHアソシエイト 長田高校 人文・数理探究類型 生徒
SGH 北野高校 生徒
SGH 関西学院高等部 グローバルリーダープログラム 生徒

[フロア]

全国の高校生による討論参加

[司会進行]

市川 顕 (関西学院大学産業研究所准教授)

15:30~15:45 講評・閉会挨拶 進藤 修一 氏 (大阪大学教授 / 教育担当筆頭副理事)

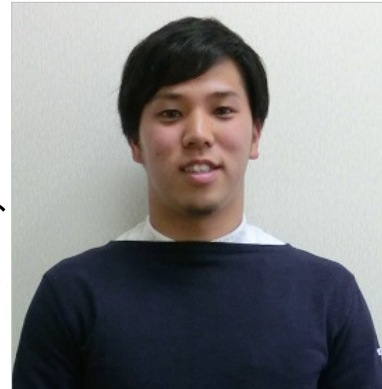
■問い合わせ: 高大接続センター TEL:0798-54-6410

『EUインスティテュート関西(EUIJ)とは』

EU(欧州連合)に関する教育・学術研究の促進、広報活動の推進や情報発信を通して、日・EU関係の強化に貢献するため、2005年4月1日に欧州委員会の資金援助により設立された神戸大学・関西学院大学・大阪大学からなるコンソーシアム。

朝6時出発で児童を見守り続けた大学生生活 一人ひとりの変化に気づくことのできる教員へ

教育学部生の有志が近隣の西宮市立上ヶ原小学校の児童のために、登校時の安全確保と見送りのボランティアを行っている。この活動は2001年6月8日に発生した大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件に衝撃を受けた教育学部の藤木大三教授が、地域の児童の安全に寄与したいと、聖和大学当時の(09年に関西学院と合併)教育学部生たちに呼びかけ、事件から1カ月後の7月8日から始まった。14年以上途切れずに続いている。



田中翔大さん(教育学部4年生)は3年生で藤木教授のゼミに入り、通学ボランティアに参加するようになった。午前7時半までに大学に集合し、交通量の多い交差点や幅の狭い道など、児童が危険にさらされやすい地点で活動する。「スピードを出す車が多く、大人でも危ないと感じた。『ぼくが児童の安全を守るんだ』という使命感が生まれた」と話す。猛暑の夏も氷雨の冬も毎朝通学路に立ち、児童とのコミュニケーションを続けた。今では顔を見るだけで、「今日は楽しみなことがあるな」「何か悩んでいるな」など心の変化にも気づけるようになった。辛かったのは、毎朝の早起き。神戸市北区在住で、通学の所要時間は1時間半。そのため、6時に自宅を出発しなければならない。レポートやテスト勉強で徹夜した日や冬の寒い朝は、何度もやめることを考えた。その度に児童の笑顔を思い浮かべて自身を奮い立たせ、皆勤を貫いた。

4月からは神戸市の小学校の教員として教壇に立つ。田中さんは「児童からもらった感謝の言葉や寄せ書きは、何よりも励みになる。この経験を生かし、一人ひとりの変化に気づくことのできる教員になりたい」と期待を膨らませている。



1月8日、感謝の会にて児童から感謝の言葉や寄せ書きをもらう通学ボランティアの学生

次号 1月18日(月)発行予定